

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成 18 年 1 月 19 日 (2006.1.19)

【公開番号】特開 2003-262791 (P2003-262791A)

【公開日】平成 15 年 9 月 19 日 (2003.9.19)

【出願番号】特願 2003-49158 (P2003-49158)

【国際特許分類】

G 0 2 B 13/00 (2006.01)

G 0 2 B 13/18 (2006.01)

G 0 2 B 13/22 (2006.01)

【F I】

G 0 2 B 13/00

G 0 2 B 13/18

G 0 2 B 13/22

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 11 月 24 日 (2005.11.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】レンズであって、

a) 主として色補正機能を実行するための第 1 の表面 (134) であって、回折効率改善機構を含む第 1 の表面と、

b) 主として光線を屈折させる機能を実行するための第 2 の表面 (138) と、
を備える、レンズ (118)。

【請求項 2】前記回折効率改善機構は、前記レンズの回折効率を増加するための、前記第 1 の表面の回折部分 (144) を含み、

前記回折部分は、凹状の特徴を有する、

請求項 1 に記載のレンズ。

【請求項 3】前記第 1 の表面の前記回折部分 (144) は、該第 1 の表面に対して少なくとも 1 つの光線の入射角を減らすことにより、前記レンズの前記回折効率を増加する、

請求項 1 に記載のレンズ。

【請求項 4】前記レンズは、約 110 度の全視野角に対して、約 5 マイクロメートルよりも小さなスポットサイズを有する、

請求項 1 に記載のレンズ。

【請求項 5】さらに、

c) 開口 (114) と、

d) 焦点面 (124) と、を備え、

前記開口 (114) と前記焦点面 (124) との間の距離が、約 6 ミリメートルよりも小さい、

請求項 1 に記載のレンズ。

【請求項 6】画像の隅における影を減少する口径食減少機構をさらに備える、

請求項 1 に記載のレンズ。

【請求項 7】前記口径食減少機構は、

a) 前記レンズの前記第 1 の表面 (134) から所定の距離のところに位置付けられる開口 (114) を含み、

前記所定の距離（１５８）は、レンズをテレセントリックにする値である、
請求項６に記載のレンズ。

【請求項８】前記口径食減少機構は、

 a) 前記レンズの前記第１の表面から所定の距離のところに位置付けられる開口（１１４）を含み、

 前記所定の距離（１５８）は、主光線を前記焦点面に対してほぼ垂直にする距離である

、
請求項６に記載のレンズ。

【請求項９】前記第１の表面は、非球面であり、かつ回折性である、
請求項１に記載のレンズ。

【請求項１０】前記第２の表面は、ほぼ非球面である、
請求項１に記載のレンズ。